

大学と市民の皆さんとで一緒に作る教育
～学生から発信！市民の皆さんに向けた健康講座～

理学療法学科 教授 田口孝行

埼玉県立大学 理学療法学科の学生は、将来“理学療法士”の国家資格を取得し、障がい（傷害）を持った方々の手助けを職業とするために日々勉学に励んでいます。“理学療法士”とは、病院内でいわゆる“リハビリの先生”と言われる職種です。まだ、学生であるため専門的知識を頭に詰め込むことが一番大事ではありますが、私は学生が大学で学んだ知識・技術を大学に在籍しているうちから、地域住民に向けて情報発信することも大事と思っております。学生はこの情報発信の実践経験を通して、“社会貢献の大切さ”や、“社会貢献することの喜び”を実践的に学ぶことができると考えております。

そこで、本講座では理学療法学科の学生（3年生）による地域住民に向けた「健康講座」実施の様子について紹介したいと思います。この講座企画は、理学療法学科の「老年期障害理学療法技術学演習」の授業の一環として行っております。

1) 学生による「健康講座」準備

学生は大学内では学生同士でグループ学習や実技練習を行います。その場合、専門用語を使いながらであっても、周りも同じ理学療法学生なので阿吽あうんで理解できます。しかし、病気や障害のことや専門用語を知らない一般の方々に向けた講座ではそうはいきません。学生は健康講座を準備する段階において、「分かり易く説明するためにはどうしたらよいのだろう？」などをグループで考えます。また、「学生同士で知識の蓄積のために教え合うような発表と違う」ことを伝えます。これによって、学生はまた悩みだします。つまり、分かり易く伝えるためには、病気や障害や運動方法の専門的知識・技術の理解だけでなく、その講座を“聞いている人々はどのような人々なのか、何を期待しているのか”も理解する必要があることに気づいてもらいます。そうこうしながら、1講座25分の健康講座（4講座）が完成し、大学内で予行演習を行い、より分かり易くなるよう最終修正が行われます。

2) いざ「健康講座」実践！

この講座は通常1月くらいに武里団地にお住まいの方々に広報して、参加者を募ります。だいたい10～20名程度の方々が集まってくれます。以前は武里団地の公民館を使わせてもらっていたのですが、最近は大学内で行っています。講座のテーマとしては、「膝痛予防」「腰痛予防」「骨粗しょう症予防」「メタボリック予防」「リズム体操」などです。

講座前、学生はかなり緊張しています。最初に行う講座のグループはだいたい毎年ガチガチです。ですが、参加してくれた方々も学生であることを理解してくれており、学生が放つ緊張の雰囲気を読みほぐすような対応をしてくれます。そのお蔭もあって、学生は徐々に緊張がほぐれ、講座を行っているグループ以外の学生も参加者の皆さん一人一人の近くに寄り添って、お話ししながら、講座の補足説明もしながら各講座が進行します。笑いも出てきます。このような光景を見ると、この講座は学生主導の講座ではなく、参加者の皆さんも一緒になって作り上げられている講座であり、市民の皆さんと大学教員・学生と協働で作り上げる実践的授業なのだと思います。



3) 「健康講座」を終えて

講座を終えて、学生にアンケートを取りました。すべての学生が“充実感が得られた”“社会貢献の一翼を担った感じがする”と回答していました。また、“聞いてくれた方々が「楽しかった」と言ってくれたことが嬉しかった”ことから“満足感”や“社会貢献の喜び”にも繋がっているようです。また、参加者のアンケートでは、講座内容について満足したとの回答が非常に多く、学生の講座で良かった点では、“一生懸命さが感じられた”“話が分かりやすかった”“笑顔がよかった”などの回答が寄せられました。「健康づくりの意識も高まったし、このような講座は是非継続してほしい」とも言っていただきました。

このような講座は、学内の授業では得られにくい“実践的学び”や“社会貢献意識（喜び・充実感）”を与えてくれる効果があることが分かりました。いわゆるアクティブ・ラーニングです。講座が終わった後の“学生の笑顔”を見てください！

毎年1月頃に行う予定です。今後とも学生の“心（意識）”を育てる“教育”、“大学と市民の皆さんと一緒に作り上げる教育”にご協力をお願いできればと思います。



* 写真の使用については、承諾を得ています。